

空いた時間で、次に何をつくるか。

「ひとり作戦会議®」 | 2021年1月1日の発表を、いまの仕事へ。



イラスト：自動化した仕事から、次の問いへ移る場面。

甲畑智康の使用経験

自分にしかできないと
思っていた仕事を、
自動化できた。

部門向けのパッケージと
自社開発のRPAを使用。
慣れた仕事を手放す
受け入れにくさも、
本人は振り返っています。

その時間を、誰のために、
何に使うか。

機械に任せること。人が考えること。

業務に応じて分けながら、人が担う次の一件を選びます。

ルールに沿う処理

入力されたデータを、
決めたやり方で集計・転記する。

入出力と例外、誤りへの対応、
確認する責任を決める。

相手と進める、未決の仕事

その数字を受け取る人は、
何を判断したいのか。

相手の今と望む将来から、
一緒に解く問題を考える。

生まれた時間の一部を、相手に役立つ仕事へ。

当社は、その使い方を仕事の一件で訓練できるよう、八つの観点を整えました。

八つの観点から、いま必要な問いを選ぶ。

日々の仕事から少し離れ、相手と将来、次に試すことを考えます。

思考する

1 なぜ、そうなのか？

2 どうすれば、
できるのか？

3 そもそも、
目的は何か？

想像する

4 相手を想う

5 将来を思い描く

6 相手に関わり、協働で
解く問題を特定する

創造する

7 問題解決の打ち手の
仮説をつくる

8 やってみて発生する
反応に注意を向ける

いま止まっている一件に、必要な観点から。

出典：2021年1月1日 No.7 原発表。仕事で使う際の説明を整えています。

集計が終わったら、相手の事情へ。

以下は、使い方を伝えるために組み立てた仕事の例です。



記録を比べ、相手が進めたい仕事を一緒に描く。

01 発注の変化を見る

一社の発注に偏りがある。
なぜ、この動きなのだろう。

02 相手の事情を聞く

先方は何を進めたいのか。
どんな手間を減らしたいか。

03 案を一つ試す

分かった事実から提案を選び、
使った反応を見て見直す。

考えた一步を、始める場面に結びつける。

「何をしたいか」に加えて、「いつ・どの場面で・何をするか」まで。

研究で比較したこと

大学生の休暇中のレポート課題で、目標を伝える条件と、いつ・どこで書き始めるかも決める条件を比べました。

報告が戻り、条件を識別できた参加者の分析では、始める時と場所も決めた群で、指定期間内に書いた割合が高まりました。

自分の仕事に置くと

いつ

次の週次集計が終わったら

どの場面で

一社の発注の変化を見るとき

何をする

先方に聞きたいことを一つ書く

当社のRPA実践と対象・方法が異なる研究です。ここでは、選んだ一步を実際の場面へ結びつける参考として用いています。右側は仕事への応用例です。

原典：Gollwitzer & Brandstätter (1997), 研究2, pp.191-192

近い仕事を、一つ選ぶところから。

まだ悩みを言葉にできなくても、短い仕事の場면을眺めてみてください。

効率化した後の時間を、考えたい

「AIで生まれた時間を、答えの出ない問いに使えるか。」

まず、「分かりやすいのに、自分に必要か決められなかった」場面を読む。
顧客の迷い、上司の期待、本人の問いから、自分に近いところを探せます。

[近い場面を読む →](#)

自分の一件から、考え始めたい

仕事を見直す実践室で、資料づくり・相談や報告など、
最近の仕事に近いものを一つ選ぶ。短い例から、見えそうなヒントを探せます。

[仕事を見直す実践室を開く →](#)

[活用について相談する →](#)